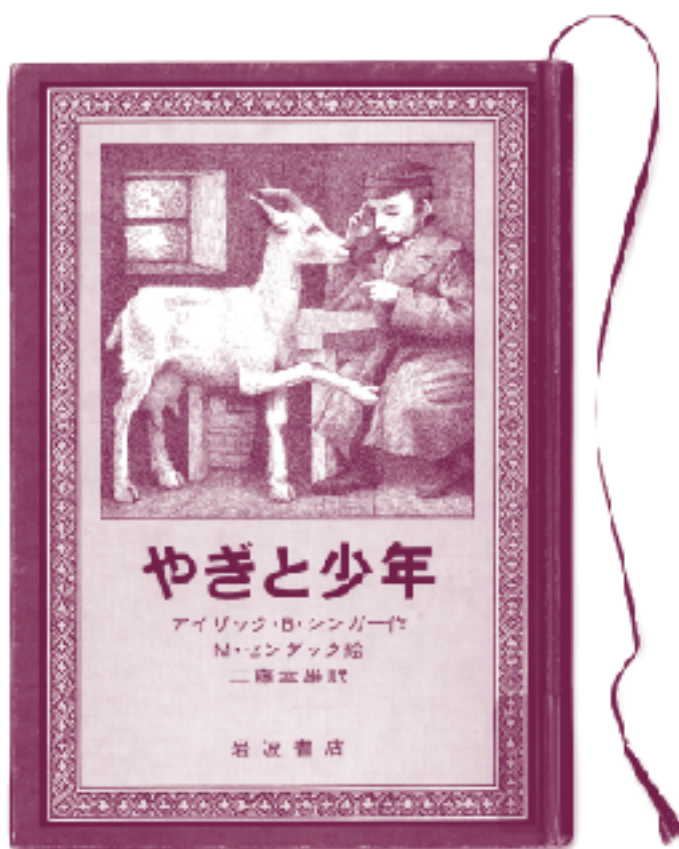


図書館だより

'03.01

逸脱？それとも型破り？

阿部包(人間生活学科)



【幼い頃の記憶】

考えてみると、わたしはいつも本流から少しばかり逸脱して生きてきた。子どものころからそうだった。スコッチテリアの模様が一面にプリントされたワンピースを着たおかつば頭のまん丸な目をした色白の男の子。これが4歳のわたしの記憶だ。ぼくの友達は、近所の白山羊。彼女の母親は、ぼくの母親に代わってぼくに母乳を分けてくれた。ぼくの母親は、疾うに母乳の出る年齢を過ぎていたのだ。昭和26~27年ころの話である。

さて、山羊の他にいつもわたしの傍にあったのは、裏が白い広告紙と鉛筆にクレパス。中学校まで、家でも学校でも読書とは無縁に育った。幸せだった。将来に

黒雲はまだかかっていなかった。青空の下には、山羊と虫たちとぼくがいた。ときに、それに馬が加わった。ワンピースを脱ぎ捨て、半ズボンと短靴を履いた少年は山羊を画き、馬を画き、芋虫や夜盗虫と戯れ、小鳥の死骸を丹念にデッサンする日々を送った。

目 次

逸脱？それとも型破り？..... 1 阿部包	お知らせ..... 6
紹介・『樋口一葉日記』..... 4	